

# 野鳥と風力発電の衝突が増える！

## 響灘における大規模洋上風力発電計画は 野鳥への影響が大きく懸念されます。

北九州市若松区響灘地区では、8カ所計 18 基の風力発電施設が稼働中です。希少な生物が生息する響灘ビオトープのすぐ近くにも大型風車 2 基が稼働しており、さらに響灘洋上の白島との間の海域では、北九州市が公募した事業者による **1 万 kw×20 数基という大規模な洋上風力発電計画**が進行中です。

まさに“**飛ぶ鳥を落とす勢い**”の風力発電ラッシュといえます。

2020年3月

### ◆ 風力発電は環境にやさしいが、野生生物にはやさしいとはいえない。

風力発電は発電時にCO<sub>2</sub>を発生させないため、地球温暖化対策として一般には環境によいイメージですが、その立地場所によっては、野生生物を中心とする自然環境にやさしいとはいえません。実際に多くの鳥類が風車の犠牲になっており、生態系への影響が懸念されています。また、人への健康被害も報告されています。

ミサゴ



©日本野鳥の会北九州支部

### ◆ 響灘地区で野鳥の衝突死と思われる死骸が発見されています。

響灘地区の風力発電施設周辺において、この5～6年間に10種22羽の鳥類の衝突死（バードストライク）と思われる死骸が発見されています（北九州支部の聞き取り調査および北九州市からの報告）。実際にはこの数倍以上発生していると推測されますが、準絶滅危惧種のミサゴや日豪・日ソ渡り鳥条約リスト掲載種のオオミズナギドリも含まれています。今後、継続して科学的に調査をすれば、さらに死骸の発見が増えることはほぼ間違いありません。にもかかわらず、これまでに何の対策も実施されていません。

### ◆ 響灘は海鳥にとって貴重な生活の場

響灘沖合の白島には、毎年多数のオオミズナギドリが繁殖のためにオーストラリア北部海域などから飛来し、初夏から秋にかけて子育てをします。響灘は子育てのための重要な採餌場所であり、生活の場です。オオミズナギドリのさらなる犠牲も心配ですが、冬期になれば多くのカモメ類が響灘に飛来してきます。そのカモメ類は海外の事例で、数百羽単位で洋上風力発電の風車に衝突しています。また、国内でも多くの衝突死の事例がみられます。

写真提供：(公財)日本野鳥の会

### ◆ 生物多様性に悪影響を与える風力発電事業計画

北九州市は生物多様性戦略の中で、「開発など人が起こす負の影響要因による生物多様性への影響」をあげています。風力発電はまさに「負の影響要因」です。同じ北九州市政の中で、生物多様性を重んじる反面、鳥類の生息に悪影響を及ぼす事業は矛盾していませんか？

### ◆ 野鳥への影響を回避・低減するには

響灘沖合の白島のような野鳥の集団繁殖地やねぐらになっている場所、重要鳥類生息地の小倉南区曾根干潟、渡りの経路、重要な種が生息する場所、鳥獣保護区、環境省選定の重要湿地など、鳥類の生息環境保全上、重要な地域での風力発電建設を避けることが第一です。

### ◆ 響灘大規模洋上風力発電計画に対して、野鳥への配慮を求めています。

洋上風力発電施設では建設後のモニタリングが困難なため、実際にどれだけの鳥類が犠牲になっているのかを把握することはできません。私たち北九州支部は、風力発電そのものに反対ではありませんが、これまで以上に綿密な事前調査を実施し、影響予測・評価を行い、さらに事後調査も長年実施し、北九州市の「人と野鳥が共存する環境づくり」に矛盾しないような計画にするよう、見直しを求めます。

参考・引用：(公財)日本野鳥の会自然保護室資料より